

# 「断る勇氣持って」

## 福嶺中で薬物乱用防止講話

森さんが体験談



講話に熱心に聞き入る生徒たち=10月31日、福嶺中学校校体育館

福嶺中学校(宮国敏弘校長)で10月31日、薬物依存症と闘っている沖縄タルク・リハビリテーション・センターの森廣樹ディレクターを講師に薬物乱用防止教育講話があった。森さんは「薬物依存症は、一度かかると治らない。死にも至

る病気」と指摘。「17歳の時、心の痛みをこまかすために覚せい剤に手を付けた。これが取り返しの付かないことになった」と自らの体験をもとに注意を喚起した。

タルク・リハビリテーション・センターは、合法物質の

アルコールも含め依存症からの回復を支援している民間団体。沖縄のセンターでは約20人が共同生活をしながら、社会性や精神、肉体のリハビリに努めている。

森さんは、薬物の使用を「かっこいい」と思っていた時期もあった。しかしそのうち、薬に頼らざるを得

ない自分を情けなく思い、使うたびに泣いた。薬物の使用量は、日を追って増え、子どものミルク代を薬の代金に充てたこともあったという。

薬物を使用した24年の間に、家族や仕事などすべてを失ったと振り返った。

「薬物依存の人の行き着く先は刑務所か死か、精神



森廣樹氏

病院、リハビリ施設しかない」と強調。生徒たちに使用を誘われたら、勇氣を持って断って」と呼び掛けた。

センターにおける森さんは、仲間を世話する役割。現在も薬物の快感が体にインプットされているが、入所を機に薬物を始め酒、タバコ、キャンブルと縁を切った。それを可能にした理由に①リハビリプログラムを通して薬に頼らない自分に幸せを感じた②薬物乱

用防止のメッセージを運ぶ役割を担っている一なごを挙げた。